十月十日　夕刊

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢　月金五拾錢　郵送五圓
廣告料　五號十行　字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

六窓一猿

眞繼雲山

（二）

この故に若し第七識さい無いならば雁、潭を過ぎて潭、影を留めずで、去來往還、何の妄執あるところもないのであるが、第七が關所に一切の外境を我れに集約して取込まうとするはたらきの末那識が頑張つて居るために、眼が美人を見て報告すると『おやつ一番手折つて見やう』との我執を生じ、耳が美聲を聞いて報告すると『どうも捨ておくは惜しいものじや』と末那公が首を傾けて本尊の阿賴那識に薫じつける。斯くて鼻根が美香をかぎ、舌根が美食を口にし、身根が柔輭の肌に觸れて報告ある毎に第六識が『結構千萬』などと裁決して上官に傳へるから第七末那識が『そりや捨ておくは勿体ない』と一切の策戰を進め第八阿賴那識に薫じつける、これを薫習といふので、一生の間に造つて一切の行業が、第八識に薫じつけられた種子（因）が緣を待つて次生に業報を受けて展開する。それが生死の輪廻である。斯やうにわれ〳〵の識は、六根を土臺（緣）として外境に染着し、煩惱を製造すること、恰も檻につながれた敏捷な猿が六つの窓に倚り、窓外の境を追ふが如きものがあるので、これを六窓一猿といふ素と清淨の心を禍ひあるものは六根である故、これを六塵または六賊といふ。

然らば悟りを求むるの道は、この六根の土臺を除塲して、何等か方法があるかといふに、この六根を緣とする以外に悟りは入るべき方便はない。

若しこの六境を觀ずるに心處一轉せんか、落花の嬪紛を見ては天地の有情を觀じ、山寺の鐘聲を聞いては諸行の無常を知り、梅花の馥郁をかいでは佛使の勸請を思ひ、一汁を味ひては佛飯の忝けなきを謝し、春風の柔輭に觸れては淨土の常樂を思ひ浮べるといふ風に眼にふれ耳に入るもの一去一來ことゝ〳〵く悟りの當体を示すものでないものはない。この故に先聖も、山色は如來身、溪聲はこれ如來詰と觀照してゐる。

不根劣機の私たちは一朝往塵の街頭に晒さるとき、窓外の六境は概ね六賊となり易いが一たび香を薫じ、

ノート

▼銀製の器を曇らせぬ法は熱湯に硼砂匙三杯を溶しその中に暫時、匙コップ等の銀製の品を浸けておくのです。

笑話

▼偉大也

母『坊や大きくなつたら見上げられる人にならなくちやいけませんよ』

坊『それぢや僕飛行家にならア……』

燈下雑筆（七）

島田忠夫

□芥川の晩年

芥川龍之介が自殺する前年の春、アララギ發行所へ來た。同道したのは齋藤茂吉先生で、アララギ發行所の入口の露路で、サイダーかビールかの空瓶の山に放尿したことは、自ら文章に草してゐる。あの時から、いはゆる死相が見えたやうに思へないことはない。

昭和二年の春は鵠沼に靜養してゐて、齋藤茂吉、土屋文明の兩人が見舞に行き「安どむらひの蓮のあけぼの」などといふ句を話したといふ。芥川の心境は「蓮あけぼの」よりも幽けかつたに違ひない。

竹内敏雄と僕は、堀辰雄に伴はれて一日芥川を訪ねた。死の一ヶ月許り前のことである。焦悴しきつた澄江堂は、丈草の

稲妻のさそひ出してや
日取蟲

を何度も口ずさんで僕らに話したのである。芥川を誘ひ出したのは、稲妻でなくして、はて何であつたらうか。

白露集

渡邊何鳴

草畑に紫蘇とびとびや霧時雨

大露の谷へなだるゝ尾花かな

呼びかはす聲こだまして菌山

秋雨や木の實踏まるゝ岩壘

秋雨の徑をながるゝ木の實かな

木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九

平町二丁目
三井タクシー
電話六八五番

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

◎期日　昭和七年十月十六日（第三日曜）雨天强風順延
◎場所　平町第三小學校庭
◎競技方法　タイム滯空競技
第四回　郡下模型飛行機競技大會
◎賞品　A組一等　掛時計一個以下十等迄　B組一等　大正琴一臺以下五等迄
奮て多數參加あらん事を願ます！
規定及び詳細は主催店へ御問合せを乞ふ！
主催　平町　いづみや飛行機材料店
後援　平町　常磐毎日新聞社
東京　ダイヤモンド模型飛行機　東京研究會

秋ヲ代表
イタシマス洋食
松茸ソテイー
松茸フライ
松茸ライス
ビフステーキ
メンチボール
チキンソテイー
紅茶
上御酒二十五錢
洋食・喫茶・宴會
コンパル
電話六六六番

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店
西村屋藥舗
平町二丁目「電三」

近日賣出す發賣品は
滿洲……？
一人前十五錢で滿腹
平町三丁目
世界食堂
電話六三三番

月曜言論

常磐炭界の更生

◇

全常磐炭界が未曾有の大不況時代に處するに磐城、入山、古河の三大礦は勿論の事群小炭礦に至るまで或は從業員の大整理斷行による經費の削減、氣分の轉換或は隔日又は三日毎に公休を增加しての出送炭制限等々眞摯にして緊張したる甦生への努力は全く涙ぐましいものがあつた、殊に在來嫉視と反目を事として毎事に爭ひ續けてゐた大炭礦側と小炭礦側が常磐炭界の甦生てふ大目的のため全ての行がかりを棄てゝ懇然として融合一致して炭價の維持に努め來たつた結果は俄然今月上旬に入るや噸當り一圓五十錢と言ふ驚異すべき炭價の奔騰を現出して當業者を雀躍欣喜せしむるに至つた

◇

勿論此の炭價奔騰の原因が滿洲事變以後に於ける一般事業界の好轉と糸價奔騰による製糸筋の復活等需要の大激增に刺戟されたものである事は疑ひないが詳細に研討する時其の幾パーセントかは前述の如く常磐炭界が擧げて甦生への精進を續け來た賜である事も疑ひない

◇

炭價昂騰！單にそれのみを以つて常磐炭界甦生せりと斷ずるは早計かも知れない甦生せりと斷ずるの如何に危險多きかを認識せざるものでもない然し打續く業會不振に疲弊困憊の極全く更生の望み無しとして前途を悲觀徒に嘆じ拱手するに比し炭價昂騰を以つて炭界蘇生せりと斷じ將來の躍進を畫せしめんとする事の如何に重要であるかを知るが故に筆者は敢て常磐炭界は蘇生復活したりと爲すものである

◇

此の奔騰に欣喜するも可雀躍も可されど此の炭價が果して持續し得るや否やを充分考察して將來の躍進に備へられる事を希望するものである

苦松草野田久氏の對立抗爭激化

村會は遂に流會となる

赤井村長問題

石城郡赤井村々長を辭職した菊地德太郎氏の後任問題は既報の如く若松、草野、田久三氏によつて依然猛烈な潛行運動が續けられ去る六日の村長改選村會は前記三氏を支持する三派の對立激化して表面化し遂に流會となつたが此の對立抗爭表面化により紛糾其の極に達し次期村會召集の日取決定さへ全く目あて付かず村當局は憂慮してゐる

農銀平支店が磐銀跡に移轉

正式に契約が成立して開業は來月上旬

農工銀行平支店では今回舊磐城銀行舍屋を讓受けるべく磐城銀行管財人漆畑永野兩辯護士其他に交渉中であつたが此の程六万二千圓を以つて同建物賣買契約成立したので久しく空屋になつてゐた磐銀建物も來月上旬頃農工銀行の移轉開業を見る筈である

訓練所職員 軍港見學

海事思想普及希望者を募る

石城郡下各町村の青年訓練所職員の海事思想普及の爲め今回横須賀鎮守府では郡下より四名の希望者を募り軍艦二泊海兵團一泊の豫定で軍港を見學海事思想を普及する事となつたので希望者は本月十七日迄各町村役場に申込まれ度いとの事であるが希望者多く定員を突破するものと觀られる

磐陽スポーツ

平第三校優勝

磐中主催第一回籠球大會決勝に

平第一校を破る

既報磐城中學校々友會主催濱三郡下各小學校對抗第一回籠球大會は昨九日午前九時より磐中グランドに於て横井、大淵、小松、國分の諸氏審判の下に行はれたがA組では平第三小學校入賞B組では平第一小學校入賞し平第一對平第三の決勝戰となつたが結局十七對十のスコアーにて第三校が優勝旗を獲得した

優勝平三A組　二等平一B組　三等平三B組　四等廣野A組　五等平一A組　六等廣野B組

平營林署優勝

濱通營林署聯合のスポンヂ大會に

濱通地方五營林省の軟式野球は昨九日午前八時より平第一校庭でトナーメント式に依つて各チームが善戰したが平署チームは決勝戰で植田チームを一蹴優勝した尙當日各チームのスコアーは左の如くである

原町　8A——7　浪江
植田　9A——5　原町
平　16A——3　富岡

決勝

平　13A——1　植田

世界館勝ツ

對南町四町目兩野球戰に

世界館對南町チームのスポンヂ野球戰は七日午後二時から第三校グランドで擧行一〇A一で世界館大勝した尙世界館對四丁目戰は九日午前十時から同グランドで擧行したがこれもまた七對一で世界館連勝

磐炭の相撲大會

內鄉坑が優勝旗獲得

石城郡內鄉村磐城炭礦健康保險課主催の第三回各坑相撲大會は昨九日午前八時より高坂グランドに開會され內鄉坑よりは土谷主將以下高坂坑は竹村主將以下、綴坑は木村主將以下各十九名宛の選手に依つて優勝旗の爭覇戰を行つた結果優勝旗は內鄉坑に授與されたが成績は左の如くである

一等內鄉坑、二等綴坑、三等高坂坑

時入買の御漆器

漆器は空前の大暴落を致して居ります。再び得難き最低絶好の御買入時です。

（共）は漆器を專門に在庫品を豐富に取揃へ

各位の御滿足を得るに努力致して居ります此の絶好機に御求めを切に御奬め申上げます。御滿足を得らるやう！如何樣にも御相談に應じます故是非一度御照會を。

各國產漆器專門卸小賣
共榮漆器店
（平町3丁目36元郵便局東通）

店員募集　十二三才…小店員　三十才迄…外交員　優遇す

季節御料理

鳥　松茸　よせなべ　丼類種々

右大々勉强　出前迅速

◎滋養豐富！風味美味！

是非一度御試食を……

大蒲燒・鳥料理
壽司・折詰仕出し
魚榮
田町（電話四二四番）

外科
X光線科
性病科
外科

入院隨意

平町田町
安齊外科醫院
電話四七五番

色づいた……
酣は秋
川前の紅葉
江田信號所に假停車場を設け
觀楓列車を運轉

石城郡川前溪谷の紅葉郷も昨今漸く色づき秋の壯麗な裝ひを凝らして觀客を待つて居るが同處紅葉の見頃は今月中旬から來月上旬にかけて最も盛りなので平驛では目下觀楓臨時列車の運轉に就いて研究中だが本年の臨時列車運轉の際は同村江田信號所に假停車場を設置する筈であるし殊に最近は乘合自動車貨切等が非常な便益をはかるので來る十六日の第三日曜と翌十七日の神嘗祭を利用しての觀楓客が相當あるものと豫想される

上遠野の火事
馬が燒死
損害約千圓
原因取調中

石城郡上遠野村字龍ノ澤農上遠野吉松（四九）方より去る八日午前二時半頃發火し住宅二棟非住家一棟を半燒して三時半鎮火したが發火と同時に馬一頭を燒死した損害約千圓で原因目下取調中である

沿道人で埋つた
山崎夫人の葬儀
悲しみの中にも空前の盛儀
今更思ふ故人の德

既報六日長逝された平町山崎與三郎氏令夫人たけ子刀自の葬儀は青沼鋒太郎氏委員長となり準備を進めてゐたが今十日午后二時古鍛冶町の本邸を出棺延々長蛇の列は告別式場たる長橋町性源寺境内まで續き仕導僧侶の讀經裡に日本赤十字社代表伏見平町長、愛國婦人會代表酒井助役、日本赤十字特別看護會々長代理會我ワカ女史、愛國婦人會平委員區藤田ミイ女史、在郷軍人石城聯合分會代表赤津一氏平分會長藤田榮助氏同將校會長四家粂治氏愛國婦人有功章代表青沼セイ女史等以下十數氏の弔辭朗讀あり次いで中央地方名士よりの弔電數百通の朝貢あつて閉式したが此の日乃自生前の德を慕つて集る參列者千數百名、宮田前警視總官、鈴木佐藤兩代議士、木村、安島白井各前代議士、金成上院議員其の他から贈られた花輪實に百一對に達し送葬の沿道は此の盛儀を見んとして集まつた群衆で埋り地方空前の盛儀であつた

押賣入り込む　收獲期が近付いた昨今農繁期を當て込んで不正商人や押賣りが多數に入り込んでゐるので平署では目下嚴重取締中だが農村方面でも充分戸締を嚴重にして胡ソ泥や空巣覗等の季節的犯罪の豫防に努められたいと當局では語つてゐた

墜落者に救の神
粹なお役人さま
大學生と酌婦の戀に
花が咲いた話

八日午後十時頃平驛の待合室に何事か秘そ〳〵と囁き合つてゐる擧動不審な年若い男女二人連れがあるのを折柄警邏中の平署員が發見本署に引致の上取調た處ろ男は東京神田區某私立大學生九州別府溫泉一流旅館主の長男高野勇三（二三）女は平町紺屋町生れ現在東京魔窟の本場とも言ふべき玉の井某料亭の酌婦高野チヨ（二二）昨年の暮頃から馴染を重ねた二人が夫婦約束までしたが晴れて添はれないのを悲觀一層一思ひにとお定りの駈落ちの一幕となつたものである事判明粹な平署の取りなしで男の親が女の前借二百五十圓を支拂つて二人を一緒にする事となつたとはめでたし〳〵

花賭博の
一味檢擧
平目拔の場所で
開張中

平町四丁目高橋レン方二階で去る八日午前十一時頃小名濱町下明神町魚屋志賀春雄（三二）及び江名中ノ作吉田武一郎（二六）同中山貞四郎（三〇）江名永崎秋山常彌（四一）の四名が車座となり現金賭の花合賭博を開帳中密行の平署員に踏込まれて一網打盡檢擧された

漁夫が
農村出稼
時化續きで
小魚とれず

石城郡江名、豊間等の各漁村では最近連續的に襲れた不規則な天候の爲め海上は時化が多い結果漁民過半の生活をうるほす近海小魚類の漁獲が一向ないので漁民中には農繁期を利用して農家手傳に出掛る者が多くなつたと

四倉繭市況
前日より馴六十錢高
出廻り氣乘り薄

四倉繭市場の昨九日に於ける取引は總數四百九貫、最高五十八圓三十錢、最低三十二圓、馴五十三圓二十錢の取引を見たが相場は依然香ばしくないのと農繁期に入つた爲め各農家共氣乘薄で居ると

兵隊の
おばさん
平婦人會で
招聘の計劃

平町婦人會では相馬郡中村町出身滿洲兵隊のおばさんで有名な橋本榮子女史が郷里に歸省する事を聞き是際平町に招聘して大講演會を催す事になつたが肝腎の同女史は今だ郷里に到着せぬので平町での講演日取を交渉し樣うもなく宙に迷つて居る

農具利用
傳習會
來る十四日
神谷分場で

石城農事試驗神谷分場では來る十四日同所に於いて特別傳習會を開催し優良農具の利用法及び穀物の簡易乾燥法等に就いて講習會を行ふが講師は同所の矢ケ崎技手及び本場の加藤技師であると

平職業紹介所報告

回求人の部

△農夫　二十前後　尋卒　月五圓位（飯野村某）
△女中　三十迄　尋卒　給料面談（平町某旅館）
△女中　十七才　尋卒　給料面談（平町某）
△看護婦見習　十七才　高卒　給料面談（平町某）

回求職の部

△外交員　三十一才　高卒　給料面談（内郷村某）
△女中　四十三才　文字を解す　給料面談（平町某）
△會社給仕　十六才　高卒　給料面談（好間村某）
△女中　二十八才　讀書心得　給料面談（平町某）

明日のラヂオ
十一日
仙台放送局

明日の部

▼前九、一〇　料理獻立「鰯の味噌燒」、松本良雄發表
▼前一、三〇　家庭講座「茶道隨感」龜山宗月
▼後〇、〇五　落語「凱旋」柳亭左樂
▼後二、〇〇　家庭大學講座「明治文學」（四）硯友社の文學運動政治小說對藝術小說の問題並紅葉の出現　芽
▼後二、二五　運動競技「六大學野球リーグ戰試合狀況」（雨天順延）明治對立發第一回戰明治神宮外苑球場より中繼
▼後六、〇〇　子供の時間　獨唱と齋唱　宮城縣師範學校附屬小學校兒童　アノ伴奏佐藤千賀子
▼後六、二五　英語講座「中等科」二ノ四—テキスト　ジョーデケイジヤー
▼後七、三〇　講演「日本の港灣に就て」港灣協會長法學博士水野練太郎
▼後八、〇〇　獨唱と管絃樂（新友響樂團練所より中繼）習獨唱渡邊ンーリ外
▼後八、四〇　義太夫「娘景請花菱屋の段」淨瑠璃竹本叶太夫外
▼後九、三〇　滿洲より講演　近衛司令憲源

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間「滿洲國の訪問を終へて」一お話　醫學博士　西村誠一　上沼久之丞　一おみやげ
▼日本學童使節代表三齋唱（一）滿洲國歌（二）君カ代　日本學童使節代表
▼後七、三〇　產業ニュース
▼後八、〇〇　長唱の夕「操り三番叟」唱　松永和風三味線　杵屋勝吉郎外「四季の山姥」唱吉住小三藏三味線　稀音家和三郎外「蜘蛛拍子舞」唱芽村伊十郎　三味線　杵屋榮之助外
▼後九、三〇　時報　全國ニュース　氣象通報

天氣豫報

今映も明日も
西の風晴れ

藤本鉄石

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演

近藤紫雲畫

第百七十一席　平手造酒

造酒破門さる

造酒は大分醉つてゐる

造『コレ三浦駕舁に賃錢と酒代で百疋遣つて呉れ』

三『どうも困りましたな時々あなたの爲につまらない散財を致します』

造『苦情を申すナ、コレ駕舁この者より賃錢を受けて呉れ』

と云ひ捨て自分の部屋へ通り

造『これ〳〵中村、茶を持つて來い、ア、醉つた〳〵濃い茶を持つて參れ、茶で醉を覺して道場へ出るぞ』

中『先生が呼んで居ります』

造『ウーム、俺に用事があると、只今參る』

湯殿に來て冷水にて顏を洗ひ口をすゝぎ周作先生の居間に來て

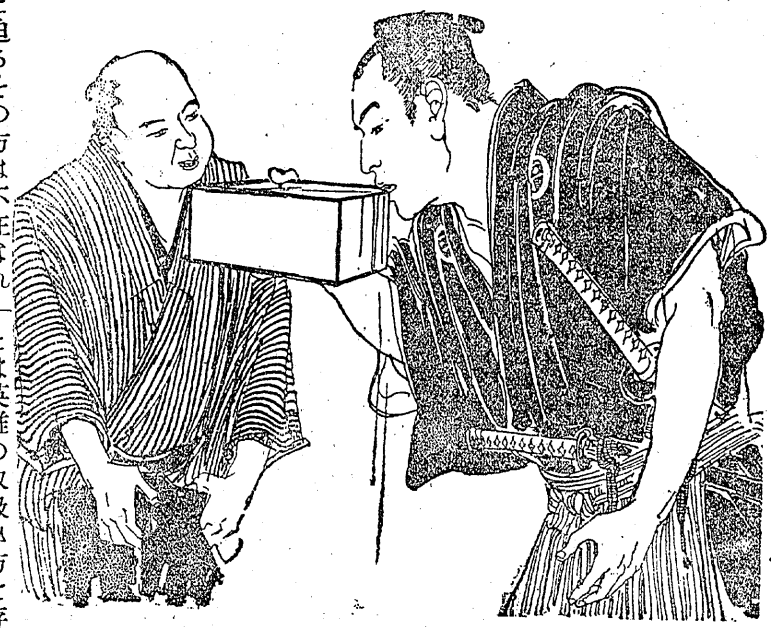
造『何ぞ御用にございますか』

周『造酒これに見覺えがあるか』

と出したは蘆に雁の刻のある笄、葵の紋が付いてゐる、これは刀や脇差に着いてゐる品、造酒はそれを見て

造『何うしてこれが先生のお手許にございます』

周『その方は不埒な奴だ、これは出羽侯より俺が拜領したものでそれをそちに讓り遣はした、然るに遊蕩費に差支て田中に居る盲人より金子を借受けるその質として預け置いたな、今日その者が參つて返金いたしくれと迫るその方は不在なれど拙者の門人であれば存ぜぬ知らぬと申して追ひ歸す事はならぬ、又出羽侯より下し置かれた此の品を盲人の手に渡すも殘念、依つてその方の借受けし金子を戻して之れを受取り置いた、その方の如き不埒者を當家に差置いては門人共の風儀を亂す依つて今日限り師弟の緣を切る、破門いたす、早々立ち去れ』



と云はれて造酒は暫く考へてゐたが

造『據ござらん、然らば今日以後道場には立ち寄りません、御免を蒙る』

ズイとその部屋を出たが一刀を腰にして玄關まで來て

造『昔から英雄豪傑には玉のやうな人間は尠い、皆一癖ある者、又刀なればとて名作には瑾物が多い、俺が道樂を致したとて放逐するとは英雄の取扱ひ方を存ぜぬな、こんな事では役に立つ門人は居るまい、ア、サバ〳〵した、師弟の關係があると遠慮もある、これからは誰憚る者もなく心の儘に天下を横行いたす、これ門人共、平手に破門になつた、これより當家を立ち去る、餞別を寄越せ、これ餞別を出せ、不實な奴だな、俺を見送る者もない、ア、緣なき衆生は度し難し、鳥も氣にいらぬ枝には止まらねえ、どれ出かけやうか』

と道場を出て半丁餘り來ると玆に三河屋と云ふ酒店がある、それへ入つて來た

造『番頭番頭、その桝へ酒を注げ』

○『平手樣でございますか、これは一升桝でございますが……』

造『一升桝で飲んでは宜しくないか』

○『イエさう云ふ譯ではございません』

造『それなら注げ』

○『お酒はおすきでございますな』

造『俺のやうな酒豪が居らば貴樣の家は保つまい、して見れば俺などは當家には福の神だ……ア、佳い酒だ今一升桝つげ』

○『大層飲みますな』

造『ウームこれでいゝ、大分勇氣が付いた、時に番頭永い間厄介になつたが、俺は千葉の許を破門された、そこで俺は當所を立退く』

○『それは飛んだ事でございますな』

造『肝の小さい千葉の許には俺のやうな肝に毛の生えた者は居らぬえ、破門されたが幸、是から滿天下を濶歩いたし誰に氣がねもせず勝手我儘に日を送る、ア、好い心持だ、それにしても千葉周作は小膽な奴だな、ウーム、道場に俺の遺物を殘して置かう』

この三河屋より引返したが玆關の廂の腕木を見上げてエイと一聲引拔いた一刀ズバリと斬つたがこの腕木は檜で幅六寸もあるを切り折つた、ガタンと音を立てたからそれに驚いて玆關前に寢てゐた犬がワン〳〵〳〵と吠え向ふの米屋に居た鷄がコケコーッバタ〳〵〳〵と羽ね叩きをしたイヤ大騒ぎは造酒ニッコリ笑つて三河屋に戻りそれこれは酒代だと金を投込んで立去りました。

ツブシ・金銀

高價買入

修繕 迅速 叮寧 廉價

星野時計店

平三丁目驛前通り

科人婦・科外

井坂醫院

平町田町

電話五五九番

冬の通學服

●原料高に逆行した

英斷的の特價提供

黑小倉長ツボン付

一年生用　八十五錢ヨリ

弊店特製

一年生用　一圓五十錢ヨリ

モリタヤ洋品店

平5丁目　電353

新製品

コーヒー通の待望せる

挽立コーヒーの快味

四半斗罐入　〇、三五

半斗〃　〇、六五

コーヒー發賣

ダアテマラ
ジモカ
ヤツバ　コーヒー　二割
三割五分
四割五分　三種配合

速席挽立を差上げます

大勝園コーヒー部

電三九六番

會葬御禮

昭和七年十月十日

平町古鍛冶町

男　山崎與三郎

親戚　山崎清三郎

總代　吉田定治郎

友人　坂田正雄

總代　木村清助

伏見　青沼鋒治郎

彦太衛